

オスマン帝国の統治

1) 最も完成されたイスラーム国家

- ① オスマン家出身の【1: _____】が支配する君主専制、中央集権の国家。→後掲2)
もちろん、家臣たちは会議を行った。御前会議はディーワーンという。
- ② 【2: _____】イスラーム教(多数派)の擁護者である。【3: _____】を滅ぼし(1517)、メッカ、メディナの保護権を手に入れ、イスラーム世界の盟主として振る舞うことが可能となった。
マムルーク朝の保護下にあったアッバース朝カリフの末裔からカリフの称号をも継承し、よってスルタン=カリフ制が成立したとされてきたが、同時代の史料がなく、後世造られた伝説にすぎない。
- ③ 【4: _____】による統治が実行された。スルタンでさえ【4】違反の勅令は出せない。
【4】とは、『クルアーン』とハディース(ムハンマドの言行)を根幹とするイスラーム法規範体系。

2) 強力な中央集権体制の国家

- バルカン半島やアナトリアなど帝国の中心部……州(総督)・県(知事)・郡(カーディー)に分けられる。
マドラサで教育を受けた【5: _____】たちが行政官として派遣された。
エジプト、イラクなど新しく獲得した領土…総督や現地の支配層に統治を任せた。(貢納金支払いを義務づけた。)

3) 【6: _____】(軍事封土制)によって維持された軍勢力

地方に派遣された軍政官や部下のトルコ人騎士(=シパーヒー)に対して、《徴税権(ティマール)を認められた封土》が与えられた。これは【7: _____】を継承したもの。ティマール制は、16世紀末ごろから火器の使用が拡大し騎士の重要性が薄れると徐々に廃止された。
アター制 → イクター制 → ティマール制

《復習》イスラーム世界の軍人・官僚は、最初は報酬を現金で支給されていた。これが【あ】。現金支給が難しくなると、【あ】の額にみあう租税を徴収できる土地の管理と徴税権(=【い】)を与えたものが【い】制。【う】朝が946年、イラク征服を機に創始し、セルジューク朝のニザーム=アルムルク1017?-92が完成させ、12世紀、【え】がアイユーブ朝で採用してエジプトにも導入されマムルーク朝(12~13世紀)でさらに整備された。なお、イスラーム圏ではないが、11世紀以降ビザンツ帝国で、テマ制に替わって実施された【お】制も同趣旨の制度である。

正解 あ アター い イクター う ブワイフ え サラディン お プロノイア

4) 有能な官僚や軍人を【8: _____】という方法で多数確保していた。

バルカン半島等で捕虜あるいは強制的に徴用されたキリスト教徒の子弟をイスラーム教に改宗させ、教育・訓練を施し、スルタン直属の官僚に登用したり、軍団の兵士(イエニチェリ)にしたりした。これをデウシルメ制と言う。強引ではあるが、さまざまな民族・宗教の出身者を集めて官僚・軍人に登用する道が開けた。この方法は、イエニチェリの兵士採用の場合だけであるかのように書いてある本もあるが、それは違う。

【9: _____】とは強力な歩兵の常備軍のことで、銃や大砲など最新の武器で武装し、よく訓練された精鋭である。行軍は楽隊の演奏を伴うのが常で、その独特の曲を聴いただけで敵は戦意を喪失したというくらい勇猛だった。イエニチェリの兵たちは、当時としては厚遇されていたが、身分はあくまでスルタンの奴隷とされた。モーツァルトの「トルコ行進曲」はオスマン軍楽隊の行進曲のリズムの影響を受けているといわれている。

5) 宗教的にも民族的にも寛大な帝国!

- キリスト教各宗派(ギリシア正教、アルメニア教会派、シリア教会、コプト教会……)の信徒
ユダヤ教徒

彼らは平和共存し、商人たちは独自の通商網で活躍し帝国の繁栄を支えた。これは通説的に言われてきたことだが、《非イスラーム教徒(ギリシア正教、アルメニア教会、ユダヤ教)の異教徒それぞれに「宗教共同体」(=ミット)を作らせ、その信仰と社会制度を認め、宗教的自治を許す代わりに、貢納の義務を負わせる政策をとった、これを【10: _____】と呼ぶ。》

最新の研究成果によると、オスマン帝国時代は、「ミット」という用語は使われていなかったし、ジンミー(非イスラーム教徒、被保護民)の共同体が「経典の民」として自らの信仰と社会生活を認められる代わりに貢納の義務を負わされていたのはイスラーム世界の通例である、とする説も有力である。でも「ミット制」で入試に出るんです! 覚えてください。

イベリア半島では【11: _____】が滅び(1492)、レコンキスタが完成すると、追放令が出されイスラーム教徒と並んで【12: _____】も追放された。ユダヤ人の多くは「ミット制」のあるオスマン帝国に逃れ、イスタンブルにも多数のユダヤ人が居住した。

6) フランスはハプスブルク家に対抗するため、オスマン帝国に同盟を求めた。

スレイマン1世は、フランス国王フランソワ1世と反ハプスブルク同盟を締結し、通商関係を深めた。次のスルタンである【13: _____】はフランスの【14: _____】に恩恵的措置として【15: _____】を与えた。次いで、イギリス、オランダなどにも与えた。従来、前述の通り、1535年、スレイマン1世がフランス王フランソワ1世位1515-1547に与えたとされてきたが、近年では、1569年にセリム2世がシャルル9世位1561-74に与えたとする新説が有力である。両説とも覚えること。いずれの説でも、これによって西ヨーロッパとの交易が一層盛んに行われたのは確かである。

キャピチュレーション(カピチュレーション): オスマン帝国がシャリーアに基づいて異教徒に与えた安全保障の制度で、恩恵的に特別に与えられるもの。内容は、租税の免除、身体・財産等の安全保障などの商業特権である。18世紀以降、オスマン帝国の衰退によって、領事裁判権を認め(治外法権)、西欧列強諸国に有利な、いわゆる不平等条約として利用された。正式に破棄されたのは、トルコ共和国が1923年に締結したローザンヌ条約によってである。なお、カージャール朝も同様の条約を西欧列強と締結していた。

オスマン帝国の文化

1) 法体系の発展

一般に、イスラーム社会では、【16: _____】が**唯一の法規範**である。シャリーアとは何か、忘れてしまった諸君は復習せよ。

スレイマン1世 位1520-66 は、検地、税制、官僚制については充分な規定を持たないシャリーアを補足する法令を積極的に制定したので【17: _____】(立法者)とも呼ばれる。オスマン帝国では、スルタンの勅令や慣習法は**カーヌーン**として成文化された。

オスマン帝国では【18: _____】(=裁判官で、ウラマーが就任)が**地方行政も担当**したのが特徴的である。州は総督、県は知事、**郡はカーディー**。カーディーは裁判官であるが地方行政も担当した。

2) オスマン帝国の文化の一般的な特徴

①トルコ語が帝国の公用語。文字はアラビア文字。つまり、**アラビア文字でトルコ語を表記**した。セルジューク朝をはじめイスラーム諸国の公用語はペルシア語が多い。ムガル朝の公用語もペルシア語。スルタンのサインは【19: _____】と呼ばれる花押かおうである。「これは何か?」という出題に備えて一度見ておくこと。

②オスマン帝国が、コンスタンティノープルを中心に宮廷を発展させると、ペルシア詩の強い影響を受け、韻律などにペルシア語詩の要素を全面的に取り入れた**ディーワーン文学**(ディヴァンDivan文学)の全盛期を迎えた。叙情詩のマフムト=アブデュルバーキー 1526-1600 はスレイマン1世時代。数学、天文学にも通じた詩人といえば、フズーリー 1483?-1556。出題頻度は低い。

なお、ディーワーンはDivanの英語読みから来ていると思われるが、通常ディーワーンと言えばdiwanのことで、イスラーム国家の役所を意味するから、ディヴァン文学の方が適切なのかも知れない。

③実学が発達した。工学、天文学、数学・・・

④歴代スルタンが建築家を保護したので、優れた建築家が輩出した。

例 建築家ミマーリ=シナン 1489-1587 【20: _____】(イスタンブル)の設計者
大ドームはハギア=ソフィア聖堂と同じ構造になっている。

≪「写真判定!」≫次の2つを写真で判定するのは至難!でも平気で出題されている。

必ず写真を見ておくように。できればイラストを描くかコピーを貼り付けよう。

(上端だけ糊付けしよう)	(上端だけ糊付けしよう)
ア) スレイマン=モスク イスタンブル スレイマン1世 16世紀 トルコ建築の最高峰	イ) ハギア=ソフィア聖堂 イスタンブル (セント=ソフィア聖堂) ユスティニアヌス帝 6世紀 1453年以降はモスク ビザンツ式ドーム建築の最高峰

《「写真判定」の方法》 創建された時期は1000年も隔たっているが、同じイスタンブルにあり、(左)は(右)を模範にして建てられたほぼ同規模の建物であるため、本体は酷似しており「写真判定」は難しい。2枚を比較できるようには出題されないだろう。1枚で判定するには、**同じ高さのミナレット**(非常に細身の尖塔)が建物本体の4隅にきちんと4本立っていれば(右)のハギア=ソフィア聖堂。ミナレットが撮り方によっては2本しか無いように見えるのが(左)の**スレイマン=モスク**である。実はやや低いミナレットがさらに2本(これが1本に見えることもある)ちゃんとあるのに、それらは建物の4隅には配置されておらず、高い方の1組はドームの背後にあり、低い方の1組は隅にある。高さの差はあまり極端でない。いろんな角度から撮った写真を何枚も見ればわかるが、そんな出題はしないだろう。一見無意味なこんな知識も当たれば得点源になる。1点を笑う者は1点に泣く。ハズしても責任は持てないが、建物の正面から撮った写真だったらハギア=ソフィア聖堂!である場合が多い。ハギア=ソフィア聖堂の写真は建物正面から撮影したものしか流通していない可能性がある。教科書会社は写真データと使用权を別の企業から買っている。写真素材を提供する企業が撮っていない角度からの写真は通常使われない、というか使いたくても使えない。自社で撮影するとすごいコストがかかるだろう。大学入試問題出題者が自ら撮影した写真を使用することはないと思われる。

3) 「チューリップ時代」とは18世紀前半、アフメト3世 位1703-1730 治下の文化爛熟期。

政治的には、これ以降は国力衰退期であり、No.145で学ぶ。